

早稲田大学 商学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	60分(現代文1問、古漢1問)
難易度	昨年並み。

〔大問別講評〕

一 評論文。「国民国家と経済政策」について。

出典：中野剛志『富国と強兵 地政経済学序説』。

《本文字数：約 4400 字＝昨年より約 1000 字増加。設問数：10＝昨年より1問減少。》

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【漢字書き取り】a・cは基本。b＝「累進」という語・漢字を知っていたか。
問二	標準	【傍線部理解】5段落に「『資本化強制』型国家」(＝国民国家)の「権力が強大である」理由が述べられている。
問三	やや易	【空欄補充】「資源動員」の手段は、次段落末尾の文にある。
問四	易	【空欄補充】同段落の内容から明らかである。
問五	やや易	【空欄補充】「ハイブリッド」は「雑種。異種のを組み合わせたもの」の意の重要語。2段落前に同内容の説明がある。
問六	やや易	【傍線部理解】前段落と同段落の内容から、「技術や制度」が何から産まれたのかをつかむ。
問七	標準	【傍線部理解】次段落の第一文から判断できる。ハは「最適解を示唆する」が不適切。
問八	やや易	【空欄補充】「マクロ経済政策」の特徴は、3段落前にある。設問の「漢字三字」という条件もヒントになる。
問九	標準	【傍線部理解・記述】文章全体の趣旨、及び、同段落の内容から書くべき語句を探す。「環境問題に配慮した～行動」、及び、「人々を動員する」こと、である。これらを設問の条件に合わせて短縮する。
問十	標準	【内容合致】ハは最終3段落の内容に合致する。イは「『資本集約』型国家は」が、ロは「封建領主的な統治形態は」が、ニは「～否定から生まれた」が、それぞれ本文に反する。

二 古文。出典：東常縁『東野州聞書』。

《本文字数：約 1200 字＝昨年より約 50 字増加。設問数：9＝昨年より 1 問減少。》

小問	難易度	コメント
問十一	やや易	【句切れ】句切れの問題は、命令形・終止形・倒置法・係り結び・終助詞に着目。
問十二	やや難	【傍線部理解】直訳では口だが、イも意識としては十分に許容範囲にある。疑問の残る出題である。
問十三	標準	【和歌解釈】設問文の「本文中に指摘もしくは言及されている」に注意。【3】の和歌の説明が最終段落にある。
問十四	標準	【傍線部理解】傍線部までの内容から「詞」「心」の意味をつかむ。
問十五	やや易	【文法】「なり」の識別。伝聞推定の「なり」を選ぶ。基本である。
問十六	標準	【傍線部理解】傍線部の「果つ」に着目して、選択肢と照合する。
問十七	標準	【和歌の修辞法】「潮」と縁のある語を第三句から指摘する。
問十八	やや難	【空欄補充】空欄を含む段落の内容を正確につかめているかが問われている。それぞれの人物の関係をふまえて消去法で判断する。
問十九	やや難	【内容合致】口の後半は、持純の問いかけに対して常縁が書物を取り出して応えていることから読み取れなくはない内容。イは「主人だった」が不適切。

二 漢文。出典：『全唐詩』第三百十卷 崔顥「黄鶴楼」。

《本文字数：56 字＝昨年より 35 字減少。設問数：3＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問二十・1	易	【返り点】「不復」で部分否定。基本である。
問二十・2	やや難	【傍線部理解】「悠悠」とうまくつながるものを選ぶ。
問二十・3	やや易	【傍線部理解】「使人愁」に着目する。使役形である。

〔総合コメント・今後の指針〕

全体の難易度は昨年並み。昨年と同様に古文が難しい。

大問一は、「国民国家と経済政策」についての評論文。字数が増えて約 4400 字の長文だったが、昨年よりやや易化した。頻出論点からの出題であり、設問は基本・標準レベルのものばかりなので高得点を狙いたい。問九では昨年と同じく記述問題が出題された。

大問二の古文・漢文は昨年並みの難易度だった。古文は、『東野州聞書』。昨年と同じく、表面的に訳すだけでなく、内容を的確につかまないと解けない設問が多かった。苦戦した受験生が多かっただろう。基本・標準レベルの設問でどれほど得点できたかで差がつくはずだ。漢文は、『全唐詩』。基本レベルの設問はしっかり得点しておきたい。